

上田市東塩田保育園の取り組み

これは、平成16年度の取り組みで、当時の保護者と保育園とが、子どもたちを取り巻くメディアの危険性を学習しながら、いかにメディアとつき合っていくかの実践です。そのきっかけは塚田園長と保護者の方々が、清川輝基氏（長野県生徒指導総合対策委員会委員・NHK放送文化研究所専門委員）の講演を聴いたことです。その後、保護者会で「ノーメディアデー」（テレビ、ビデオ等を含めてすべてのメディア）を実施しました。具体的には毎月の第3日曜日（家庭の日）をその日としました。それまでの取り組みとして保護者会だより「メディアと子どもとの関わりを考える」を4回発行し、その中で「ノーテレビ・ノービデオデーって？」「メディア漬けはなぜいけないか？」「メディア漬けにしないためにできること」「メディアリテラシーって何？」「メディアリテラシーを家庭から」などの項目で保護者への情報提供をはかりつつ、アンケートを通して生の声も寄せてもらっています。

このように保護者会だよりを通しての啓発活動は一方的な知識の押し付けだけではなく、発行ごとに保護者の声を聞いてそれをまた、他の保護者へ発信していくという形をとり、丁寧にメディアリテラシーについて学習を深めていきます。そして、後半は実際に毎月1回のノーメディアデーの実践です。第3日曜日は家庭の日ですが、その日を実施日にあて子どもたちには実践できたら塗り絵を塗るという楽しみも工夫しています。このように保護者と子どもたちが休日をどう過ごしたかを検証しながら具体的な提案をしています。

保護者会だよりを通しての啓発活動

（保護者会だより1号より）

メディア漬けにしない為に出来ること

「親の視聴時間が長いと、子供も長くなる」と小児学会は言っています。

- * 見ていないテレビは消しましょう。
- * 食事の時はテレビをつけないようにしましょう。
- * 子供ときちんと向き合う時間をつくりましょう。



これからの季節は、子供と一緒に散歩するのにとってもいい時期です。塩田平には神社やお寺がたくさんありますから、子供と訪ね歩いてもいいと思います。

別所線を利用すれば、気軽に電車に乗ることも出来ます。創造館では図書館の利用も出来ますし、芝生の広場や公園もあります。子供と一緒におやつを作ったり、折り紙をしたり、家族でカルタやお手玉、トランプなどして過ごしても、楽しいと思います。子供は自分で楽しめる事が見つければ、テレビやビデオが無くても平気だったりします。この機会に子供と一緒にテレビ・ビデオとの接し方を見直してみましょう。おそらく、「夜、こんなに時間があつたんだ」と気付くと思います。「うちの子って、結構工夫して遊ぶじゃない」「兄弟誘い合って遊べるんだな」と子供を見つめ直すことが出来るかもしれません。

保護者会だよりの第1号の最後で、保護者の皆様の声を聞かせてくださいということで、

- * ノーテレビ・ノービデオデーの取り組みについて
- * 我が家での、メディアと子供の関わり方について
- * テレビ・ビデオを消して、子どもとどう過ごしましたか

など、保護者の皆様が感じたこと、気付いたこと、何でも構いません。ということで保護者の方々のアンケートを実施しました。次には、その内容を項目ごとにまとめてみました。
(保護者会だより2号より)

うちでは、こんなふうにテレビと付き合っていました。

- ・兄弟がいないので、いつの間にかテレビ・ビデオなどに頼って寂しくないようにと、つい見せていた。最近は自分で勝手に見られるようになってしまって子供とコミュニケーション不足になっているなど、反省しています。
- ・自身が仕事をしているため、帰宅するまではやはりテレビを見る時間が増えてしまいます。食事中もテレビは良くないと思うのですが、ケーブルテレビのためか、食事の時間帯にポケモンなどの番組があり、翌日学校や保育園での話題にもなるらしく、見るなどと言えない事も度々あります。
- ・共働きのため、仕事から帰ってきて夕食の支度をしている間など、テレビを見せてしまうことも多いです。ただしつけの意味で、食事中はテレビを消す習慣はあります。
- ・朝は時計代わりにテレビがずっとついていました。
- ・親が忙しくて構ってあげられない分、ビデオやゲームに子守りをさせていた時期がありました。時間を忘れ、日々のめり込んでいく子供の姿を見て、とても怖くなりました。
- ・我が家では食事の支度の時に、火や包丁が危ないのでその時はテレビを見てもらうか、兄弟で遊んでいてもらうことにしています。
- ・テレビは大好きですが、一日のうちで自分の見たい番組を自分で決めて、一時間ほど見えています。今のところ習慣から、ビデオを見たりゲームをすることもあります。
- ・日々忙しくても、だらだらテレビにくぎ付けではなく、30分・1時間と決めて、週に1度はノーテレビデーを心がけています。すべて生活習慣として身に付けていけたらいいと思います。
- ・テレビとビデオでは、どちらかというとビデオを見る方が多いのですが、その時間帯が夕食の支度をしていて、子どもの相手をしてあげられない時に「ビデオを見ていて」と、自分が子どもにすすめてしまうことです。子どもも見始めると夢中になってしまい、声をかけても返事が返ってこない時があり、注意することも時々あります。

テレビを消してみたら……。

- ・いつも当たり前のようについてたテレビですが、つけなければそれはそれでOKだったにして……。子供は見たい番組以外は、ただ流れているから見ている、という感じだったんだと思いました。
- ・今まで見てはいないけれど、音がないとなんとなく寂しいというときのテレビを消してみたりもしました。子供は初め不満そうでしたが、「見ていないなら消そうね」と言うと案外納得してくれました。お父さんも、全く見ないとはいきませんが、見ていないテレビは、消してくれるようになりました。
- ・ノーテレビを実践してみて、普段親が楽をしたいために、つい見せてしまっていたんだなーと反省しました。最初から24時間なんて気張らずにやったことで、自信ができました。これからは休みの日には、数時間ずつ試しながら実践していきたいと思います。
- ・子供たちは、テレビがないならそれで、次の遊びと考えるようになりました。この頃は、全

くテレビを見ない日も多いです。

- ・「テレビって意外とつけなければつけないでいられるじゃない」率直にそう思いました。テレビをつけていたのは、自分たち（父母）だったのかもしれない。

これからどう付き合っていけばいい？

- ・時間を決めて、見ていないテレビは消すようになど、心がけていきたい。
- ・今の「外へ出たい」という気持ちを大切に、なるべく外で遊ばせようと思います。夕食を作る時もビデオを見させていましたが、1人で遊べるようなことを考えたり……、実際大人の方がテレビ好きなので、まずはそこから考えていかなければと思います。
- ・親自身が面倒くさがらず子供たちと外へ出てみようかなと思っています。
- ・今まで以上に子供と一緒に出来ることを自分たちなりに見つけていこうと思います。
- ・月に一回からでもいいので、テレビを見ないまたは、大幅に視聴時間を短縮してみるのはいいいことではないかと感じました。子供は本来、退屈して持て余す時間を工夫して遊んでいたし、その中で幼児期に必要なことを学んでいたんだと、今回の資料を読み返して思い出しました。
- ・食事のテレビは消したいのですが、祖父母もいて思うようにいかないところでもあります。このようなきっかけのおかげで一ヶ月に一回だけとか始めてみたいです。
- ・生活のサイクルを変えるということは、なかなか難しいかもしれないけれど、心持ち一つで違いがあると思うので、我が家も含めたたくさんの家庭でメディアとの付き合い方を意識しつつづけていけたら……と思います。
- ・親の気持ち次第で子供も変われると思います。親自身が時間に余裕があると子供とゆっくり接することが出来、ノーテレビ・ノービデオデーに取り組めると思います。
- ・テレビの時間を短くしていくとか、テレビは見てもゲームはしないなどしていき、癖をつけていけたらいいと思います。そうしていくうちに環境が変わると生活リズムも変わっていくし、子供と向き合う時間も大切に出来る気がします。
- ・もっともっと子供と遊んであげられる時間をつくってあげたいものです。

いままでもテレビ・ビデオがなくてもこんなふうに子供と過ごしていました。

- ・なるべく外で遊ぶ、お散歩や園芸、野菜作り、動物と親しむなど、親子の関わりを大切にしながら、一緒に楽しむ時間をつくるようにしています。本来の遊びを取り入れ、人間らしく成長していった欲しいと思います。
- ・朝・夕の食事は必ず子供と食べるようにしています。その時はテレビを消し、特に夜の食事は、その日の園や学校の出来事はその日のうちに話を必ずきいてやります。子供の話にきちんと耳をかたむけて聞いてあげると子供もすっきりするような気がします。
- ・お弁当を持って出かけることは子供は大好きで、昔遊びとしてはわらべ歌遊びも月に1、2度あったり、絵本も大好きなのでそれぞれの選ぶ本を読んであげたり、童謡を歌ってあげたり、一緒にお菓子作りやお料理をしたりなどできてきていたので、これからも続けていけたらと思います。
- ・我が家では父親の存在がすごく重要な位置にあります。子供の視線に立ってくれた遊びを沢

山してくれるのでありがたく思っています。別所線に乗ったり、神社に遊びに行ったり、新聞で家を作ったり折り紙も色んな折り方を知っていて子供とやり取りしています。

- ・普段もなるべく外で遊ぶように心がけています。今までにも創造館の図書館や自然運動公園に行ったりしています。その他には田んぼや畑の手伝いをしたりして外で過ごすようにしています。

その他、こんな意見や質問がありました。

- ・テレビを消して、どう子供と過ごしたか……も大切ですね。やはり親がわずかな時間でも、きちんと子供と向き合う……ということが一番大事なのではないでしょうか。
- ・共働きならではの、限られた時間の中でいかに子供と楽しめるか、充実感のある日々を送れるかを常に考え、生活している部分もあります。
- ・確かに親が幼児であった頃に比べ、テレビやビデオに子供が接する機会は長くなっています。休日など子供に漫画(アニメ)やビデオを見させておいて、親が家のことをやっている……という状態もないわけではありません。「子供と、テレビ・ビデオを見るときは、放任するのではなく情報を一緒に共有することがたいせつなのだ」ともいわれていますが、毎回そうできない実情もあります。(中略)テレビ番組が多様化され、ビデオやDVDのソフトは低価格が進んでいる現在、私共親も子供も、それに触れずに生活することは出来ません。要は「テレビを見させて放っておかないこと」が大切なようにも思います。
- ・テレビ・ビデオを見るときは、一緒に見て「あの花、きれいだね！」など、感想を話しながら見ると良いということを聞いたことがあります。

～質問～

- ・テレビゲームについて、意見をお聞きしたいです。小学生くらいになると、お友達が持っているから(持っていないと仲間はずれになっちゃうから)という理由でテレビゲームを欲しがると子供が増えるという話を聞きます。もちろん時間を決めて上手に使用すれば決して悪いことばかりではないと思いますが、結局時間を守れずにだらだらと遊んでしまうことが多いと聞きます。(中略)我が子には出来れば与えたくないなあ…と考えます。ゲーム目当てにお友達の家へ通うよりも、外でのびのび遊んで欲しいのですが、今の時代、それは難しいことなのでしょうか。ゲームを持っていないと交友関係を築くのに難しいのでしょうか。
- ・これから子供同士でゲームやテレビなどの情報を交換することも多くなっていくと思います。親はどのように対処していくのがベストなのか、そんなことも経験談など、お聞かせいただければ嬉しいです。
- ・核家族の場合、母親が一人で家事をさばかなければならない現状があります。そんな状況の中でどうすれば、テレビやラジオから子供を遠ざけることが出来るか、具体例を教えてください。

この取り組みについて、保護者の意見・感想を常に求めながら進めていきます。また、保護者の方々から寄せられた質問に対するアドバイスなどもしながら理解を図っています。例えば、前回のアンケートの中で質問が多かったテレビゲームについては保護者会だよりの中で次のように伝えています。

(保護者会だより 3 号より)

ゲームの購入はギリギリまで待つ。使い方も話し合う。

テレビゲームの魅力は、子どもの心に非常に強烈なインパクトをもたらすようです。その反応は年齢が低ければ低いほど強いことがうかがわれます。「興奮して眠れなくなった」「やるたびに鼻血が出た」「寝言でもゲームのことを言う」など、心身に余韻が強く残るのは、小学生よりも幼児だという声が圧倒的です。

電磁波の影響も気になります。ゲームはテレビと短いケーブルだけでつながっているため、テレビモニターとの間に距離を保てませんから、電磁波を至近距離で受けることになります。

「年少・年中のお誕生日やクリスマスでプレゼントはテレビゲーム（携帯ゲーム）」という家庭も少なくないようですが、それはぜひとも見直してください。せめて小学生になってから。できれば「まだ買わなくても大丈夫」のようなら、買わない。ゲームの保有は「○○ちゃんが持っているからボクも」という連鎖反応になりがちですから、あなたが買わなければお友だちも買わずにすむかもしれませんよ。

「ゲームを始めるときには、キッチンタイマーをセットして、鳴ったら5分以内に片付けるのがルール。「もう少し」と言っても5分過ぎたらコンセントを抜きます。」

「わが家に来る子は「1時間ゲームをしたら、1時間外で遊びなさい。」とゲームを取り上げて外に出します。「それがおばちゃんちのルール」と決めているので、遊びに来た子たちもちゃんと外に出ていきますよ。」

「テレビに子育てをまかせていませんか？」(主婦の友社) コモ編集部編より

ノーメディアの日の実施

9月から翌年の2月まで6回の家庭の日（毎月第3日曜日）に実施を呼びかけ、子どもたちにはチャレンジに成功したらその月の絵柄を塗れるように厚紙に下記のような塗り絵用紙を作成しています。

「テレビを見ない」という体験をしてみませんか？

9月19日



10月17日



11月21日



12月19日



1月16日



2月20日



家庭への強制ではなく、この日をきっかけに各家庭でテレビを見ない日を増やして欲しい！との願いを込めて、保護者会と保育園より、月に一度の「ノーメディアチャレンジ」を提案することになりました。

「毎月第3日曜日はノーメディアの日」

一度テレビのスイッチを完全に切ってみることで、自分が、そして家族がメディアとどんな形で関わっているか、メディアが家族にどんな影響を与えているかが、見えてくるかもしれません。

チャレンジに成功したら色をぬってね！！

アンケート結果

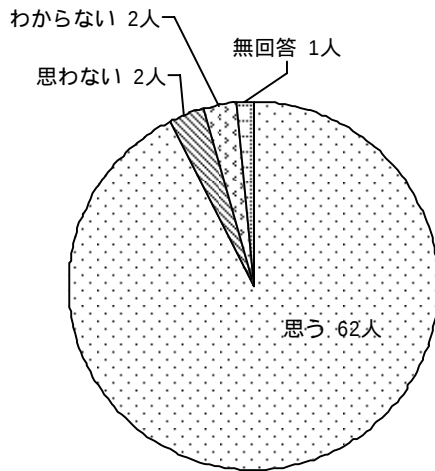
(保護者会だより4号より)

先日のメディアに関するアンケートでは、たくさんの保護者の皆様より回答を頂きありがとうございました。早いもので、本年度の保護者会活動の一端として取組んで参りました「メディアと子供との関わりを考える」も、今回のお便りが最終号となります。

皆様から寄せられたアンケートを基に、下記のようにまとめてみました。

1) あなたは子供の育ちにメディアが、何らかの影響を及ぼしていると思いますか？

【回答率 56% (67 / 119 家庭) 以下同】



良い点

・歌や言葉などすぐ覚えて楽しんでいる 2人

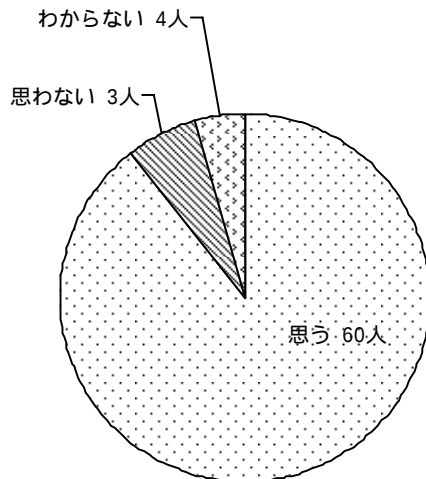
悪い点

- ・視力の低下 14人
- ・言葉遣いが乱れる 12人
- ・心の発達・感情の成育に影響 8人
- ・会話やコミュニケーションが少なくなる 8人
- ・現実と非現実との区別がつかない 7人
- ・脳の発達 5人
- ・集中力がない 5人
- ・命の考え方 5人
- ・小・中学生の事件の凶悪化 4人
- ・体の発達 3人
- ・キレやすい 3人
- ・遊び方が分からない(外遊びや体を使って) 3人
- ・言葉の遅れ 2人
- ・聴覚の低下・寝不足

・親がテレビなどに集中して子供に疎外感を与える

など (複数回答あり)

2) あなたが子供だった頃と比較し、今の子供の体や心の育ちが変わってきていると思いますか？



良い点

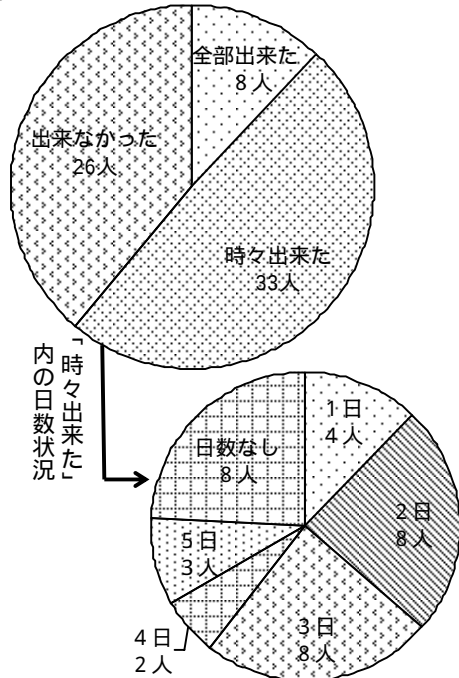
・体の発育は良くなった 3人

悪い点

- ・自分達が子供の頃は外で思い切り遊んでいた 22人
- ・体の弱い子が増えている 8人
- ・我慢することが出来ない・キレやすい子が多い 7人
- ・言葉遣いが悪い・表現力が乏しい 6人
- ・人に対する思いやりがなくなっている 5人
- ・精神的にとっても弱い 5人
- ・遊び方を知らない 4人
- ・人との関わり方が上手く出来ない 3人
- ・物事がゲーム感覚・現実とメディアとの区別がつかない 3人
- ・子供同士での遊びが少ない(親と一緒に遊ぶ) 2人
- ・考え方が幼い・妙にませている・物があり過ぎて大切にしない・金銭的な価値に比重がある・大人を馬鹿にしている・マナーの悪い子が多い・テレビに執着している・親が忙し過ぎ・社会や大人による変化

など (複数回答あり)

3)「ノーメディアチャレンジの日」の取り組みをしてみましたか？



出来なかった理由

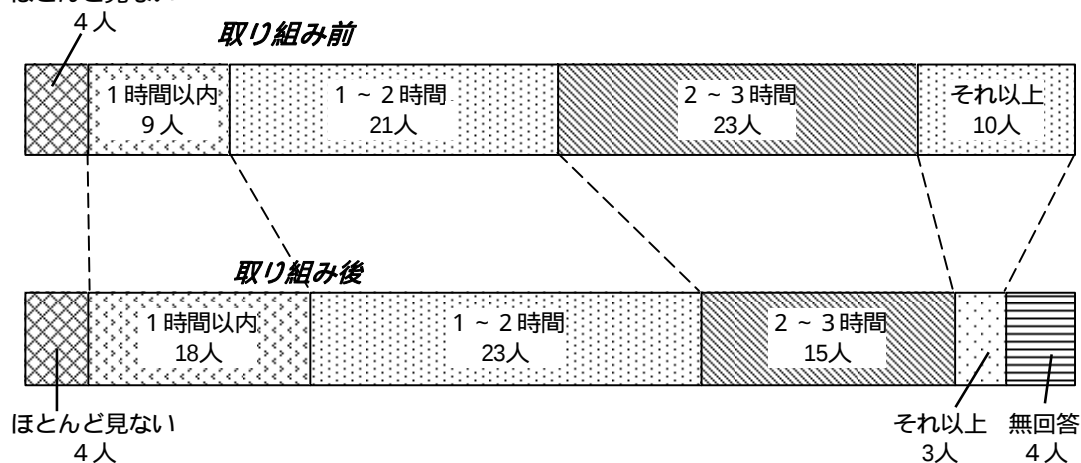
- ・大人が我慢できないから 17人
- ・子供が我慢できないから 9人
- ・関心がない 1人

その他の理由

- ・忘れてしまった 2人
- ・祖父母と同居している 2人
- ・家族みんなで見るテレビもあった 2人
- ・減らすことはできた 2人
- ・1日と言わず極力テレビなどつけないように心掛けた 2人
- ・普段から取り組んでいる 2人
- ・ついテレビをつけてしまった 1人
- ・ニュース・天気予報等必要なものもある 1人
- ・平日の帰宅後から就寝時まで取組んだ 1人

など（複数回答あり）

4)「ノーメディアチャレンジの日」の取り組みを始めるまで、あなたのお子さんは1日平均何時間ほとんど見ない・ビデオ・ゲームに触れていましたか？



5) メディアからなるべく遠ざかろうとして、行ったことを教えてください

- ・一緒に料理をする・絵本を読むなど親子で過ごす 25人
- ・外へ連れ出す 21人
- ・だらだらテレビをつけていることをやめた 7人
- ・見たいテレビを決める 6人
- ・親がテレビをつけない 5人
- ・約束の時間以上は見せない・やらせない 5人

- ・手伝いをさせる 3人
- ・食事中テレビを消す 3人
- ・ゲームを禁止した 2人
- ・ビデオのレンタルをやめた 2人
- ・子供の話をきちんと聞くようにした 2人
- ・普段から取組んでいるので特に何もしていない 2人
- ・テレビのコンセントを抜いた・テレビをリモコンではなく主電源で消す
- ・ゲームを買わない・ゲームを必要以上に与えない
- ・一人で観ないようにし、情報を共有するようにしている
- ・主人にわかってもらうように説明した
- ・食事の用意の時など父親に子供の相手をしてもらった
- ・親が働きかけ、子供の意思で「テレビは自分で消す・必要なものだけを見る」ようにした など (複数回答あり)



6) その結果どうでしたか？

- ・家族の時間を楽しめた・会話が増えた 16人
- ・おもちゃで工夫して遊ぶ時間が増えた 14人
- ・子供はメディアなしでも十分に楽しむ事が出来ると改めて感じた 5人
- ・メディア以外のものに興味を持ち出した(絵本など) 5人
- ・外遊びの時間が増えた 4人
- ・「テレビを見たい」と言わなくなった 3人
- ・テレビは大人に付き合わされて見ていることが多いと改めて感じた 3人
- ・特に変わらない 3人
- ・早寝の習慣が出来た 2人
- ・よく分からない 2人
- ・快食・快眠、メディアに触れない方がいきいきとしていた
- ・自分の力でいろいろ出来るようになっていた・子供に活気が出てきた
- ・お手伝いをしてくれた・よく食べるようになった・落ち着いてきた
- ・テレビのスイッチを押す回数が減った・ながら観をしなくなった
- ・ルールに納得したのかゲームの時間が以前より減った
- ・ゲームをやっていた時間がビデオになった・時間を決めて出来るようになった
- ・親の気持ちにゆとりが必要と認識した・子供の会話から様子がわかるようになった
- ・親が安易にテレビやビデオに頼ってはいけない
- ・まだテレビがないと淋しいのかつけてしまう
- ・時間を決めても兄弟で見る時間帯が違うので、結局だらだらと見てしまう
- ・子供はテレビやゲームが大好きだということがより強く感じられ、このメディア社会の中、子供の意思だけで遠ざけていくことは不可能だと感じた。

など (複数回答あり)

7) 今後どのようにしていきたいと思いますか？

- ・視聴時間を最小限にしていきたい 22人
- ・意識して続けていきたい 18人
- ・子供と家族が触れ合う時間を増やしていきたい 11人
- ・親が我慢しなくてはならない 3人

- ・「忙しい」を言い訳にしないようにしたい 3人
- ・大人もあまりテレビを見ないように家族全体で取組みたい 2人
- ・上手にメディアと付き合っていきたい 2人
- ・今のメディアへの興味を、本や絵描き、遊びを含めた勉強に向けていきたい
- ・メディアを媒介にして親子の会話ができる時間を確保していく
- ・見ない日が増えるよう、またストレスにならないよう、当たり前にしていきたい
- ・親も努力をして不必要なメディアから子供を遠ざけていきたい
- ・食事の時だけでもテレビのないところでとりたい・つけっ放しにしない
- ・働いている大人も一緒になって、休日は子供との時間を作る
- ・0にこだわらず子供にあった番組を選んで見せていきたい
- ・どうしても見たい物だけを見る様にしていれば、それ程問題はないと思う
- ・普段からあまり見ないのでこのままいきたいと思います
- ・テレビゲームには触れないようにしたい・できるだけ買わない

など（複数回答あり）

8) その他 ～日頃の子育ての中で知りたいことなど～

メディアと関連して「睡眠障害」「就寝時間とメラトニン分泌の報道」「遊びと子供の発達」など、またメディア以外でも「しつけのこと」「健康・病気について」「他の子供との関わり方」など、他にもたくさん寄せられました。

参考にさせて頂き、今後、何らかの形で情報が提供できればと考えています。



ご覧になってどんな感想をお持ちになりましたか？

アンケートの中の「メディアから遠ざかろうとして行った事は何か？」の問いに、親子で一緒に過ごしたとの答えが多数ありました。

また、「その結果どうでしたか？」の問いに対しては、親子のコミュニケーションの時間が増えたという嬉しい答えが多く寄せられました。

また、「絵本などメディア以外の遊びに興味を持ち出した」「子供はメディアなしでも十分楽しむことが出来ると改めて感じた」など、新しい我が子の姿を発見できたという答えもありました。

メディア漬けの生活を少し離れることで、メディアと子供、または、メディアと家族との付き合い方を見つめ直す、良いきっかけとなったと言えます。



まとめ ～メディアリテラシーを親から子供へ～

テレビ・ビデオ・テレビゲームなどは、子供たちが非常によく好んで接触しているメディアです。そして、これらのメディアが子供達の脳の発達、心や体の発達に及ぼす影響については、これまでに伝えしてきました。

しかし、単に子供たちが好むこれらのメディアを否定するだけではなく、学齢期の子供達の発達課題を考慮し、理解した上で、メディアと子供の関り方を考えていく必要があるのではないのでしょうか。

親として可能な限り子供と一緒に遊んでみて、子供の文化を理解する（子供たちが今どんな遊びに夢中になっているかなど）とともに、自分たちの子供の頃と比較して何が違って、何が変わっていないのかを実際に確かめてみるといいと思います。

～ 具体的な提案として～

- ・テレビ・ビデオの視聴、ゲームの使用に当ってはしっかりとした制限を設け、付けっ放しにせず、子供自らがスイッチ（主電源）を消すようにしてみたいと思います。
- ・テレビ・ビデオの視聴は、出来る限り子供と一緒に見るようにしたいと思います。また、子供たちと内容について話し合うことも大切です。
- ・もし、子供が絵本を読んで欲しい、一緒に遊んで欲しいと望んだ時には、テレビを消してきちんと子供と向き合ってあげたいと思います。
- ・子供を祖父母に預ける時などには、テレビ・ビデオの使用についてのガイドラインを伝えていきたいと思います。
- ・食事の時はテレビを消して、家族の会話が広がる楽しい食卓にしたいですね。

～ 子供と手をつなぎ、外へ散歩にでかけませんか？～

子供と一緒に季節を感じ、会話することで、豊かな時間が流れ新しい発見があるかもしれません。そんな些細な親子のふれあいが、懐かしい記憶として子供の心に残っていくのかもしれないですね。

最後になりましたが、保護者の皆様にとってこの取組みが、家族のふれあいの時間を持つきっかけ、またはコミュニケーションの大切さを再確認できるものであったとしたら、役員一同、とても嬉しく思います。

一年間、ご支援とご協力を頂きまして、本当にありがとうございました。

おわりに

ノーメディアデーを実施した結果は、年度末にアンケートという形で集約されましたが、保護者の方が我慢できないという声もあり、ノーメディアデーを実施するのは簡単ではないことがうかがえます。今後の展望としてメディアを否定することは当然できませんが、メディアと上手に付き合っていくという意識により、メディアリテラシーは向上していくことでしょう。

一方で、今年度の取組として、まずどうしてノーメディアデーを実施するのかということから出発して、新しく入園したお子さんの保護者を中心にメディアリテラシーの意義を説明していきます。そして、新たな課題として、メディアと離れたときに何をしたいかわからない、どのように触れ合ったらいいかわからないという声に応えていくことになりました。その一つが参観日に実施したネイチャーゲームです。年長組は園内の草花の名前宛ゲーム、年中組は花いちもんめ、そして年少組は泥んこ団子づくりでした。今年度も7月から第3日曜日に「ノーメディアデー」を実践しています。